

平成 29 年 12 月 19 日  
地震調査研究推進本部  
地震調査委員会

## 上法軍寺断層の長期評価

これまでに行われた調査研究成果に基づいて、上法軍寺（かみほうぐんじ）断層の諸特性を次のように評価した。

表 1 上法軍寺断層の特性

| 項目                | 特性                                 | 信頼度<br>(注 1) | 根拠<br>(注 2)                    |
|-------------------|------------------------------------|--------------|--------------------------------|
| 1. 断層の位置・形態       |                                    |              |                                |
| (1) 構成する断層        | 上法軍寺断層                             |              | 文献 1、2、3                       |
| (2) 断層の位置・形状      | 断層の位置                              |              | 文献 2、3                         |
|                   | (西端) 北緯 34° 14.6′<br>東経 133° 50.8′ | △            |                                |
|                   | (東端) 北緯 34° 13.8′<br>東経 133° 54.0′ | △            |                                |
|                   | 地表の断層の長さ 約 5km<br>一般走向 N75° W      | △<br>○       |                                |
| (3) ずれの向きの種類      | 北側隆起の断層                            | ○            | 文献 3                           |
| 2. 断層面の地下形状       |                                    |              |                                |
| (1) 断層面の傾斜        | 不明                                 | —            |                                |
| (2) 断層面の幅         | 上端の深さ 約 0 km                       | ◎            | 地震活動から推定される地震発生層の下限深さは約 15 km。 |
|                   | 下端の深さ 約 15 km                      | △            |                                |
|                   | 断層面の幅 不明                           | —            |                                |
| (3) 断層面の長さ        | 不明                                 | —            |                                |
| 3. 過去の断層活動        |                                    |              |                                |
| (1) 平均的なずれの速度     | 不明                                 | —            |                                |
| (2) 過去の活動時期       | 不明                                 | —            |                                |
| (3) 1 回のずれ量 (注 3) | 1 m 程度                             | △            | 長さから文献 4 により                   |

|                   |        |   |               |
|-------------------|--------|---|---------------|
|                   |        |   | 推定。           |
| (4) 平均活動間隔        | 不明     | — |               |
| (5) 過去の活動区間       | 全体で1区間 | ○ |               |
| 活動時の地震規模          |        |   |               |
| (1) 活動時の地震規模 (注4) | M6.0程度 | ▲ | 長さから文献5により推定。 |
| 地震後経過率            |        |   |               |
| (1) 地震後経過率 (注5)   | 不明     | — |               |

注1：信頼度は、特性欄に記載されたデータの相対的な信頼性を表すもので、記号の意味は次のとおり。

◎：高い、○：中程度、△：低い、▲：かなり低い

注2：文献については、本文末尾に示す以下の文献

文献1：活断層研究会編（1991）：「新編日本の活断層一分布図と資料一」．東京大学出版会，437p.

文献2：Sangawa, A. (1978) : Geomorphic development of the Izumi and Sanuki Ranges and relating crustal Movement. Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser. (Geography), **28**, 313-338.

文献3：田力正好・堤 浩之・後藤秀昭・松田時彦（2017）：讃岐山脈北縁周辺の活断層とそのテクトニックな意義．日本地球惑星科学連合大会予稿集，SSS12-P16.

文献4：松田時彦・山崎晴雄・中田 高・今泉俊文（1980）：1896年陸羽地震の地震断層．地震研究所彙報，**55**，795-855.

文献5：松田時彦（1975）：活断層から発生する地震の規模と周期について．地震第2輯，**28**，269-283.

注3：経験式によれば、1回の活動に伴う変位量D（m）は、断層の長さL（km）を用いて、 $D=0.1L$ と表される。

注4：経験式によれば、活動時の地震規模M（マグニチュード）は、断層の長さL（km）を用いて、 $M=(\log L+2.9)/0.6$ と表される。

ただし、長さ20km未満の活断層には適用できない可能性があるため、ここでは信頼度を▲とした。

注5：最新活動（地震活動）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

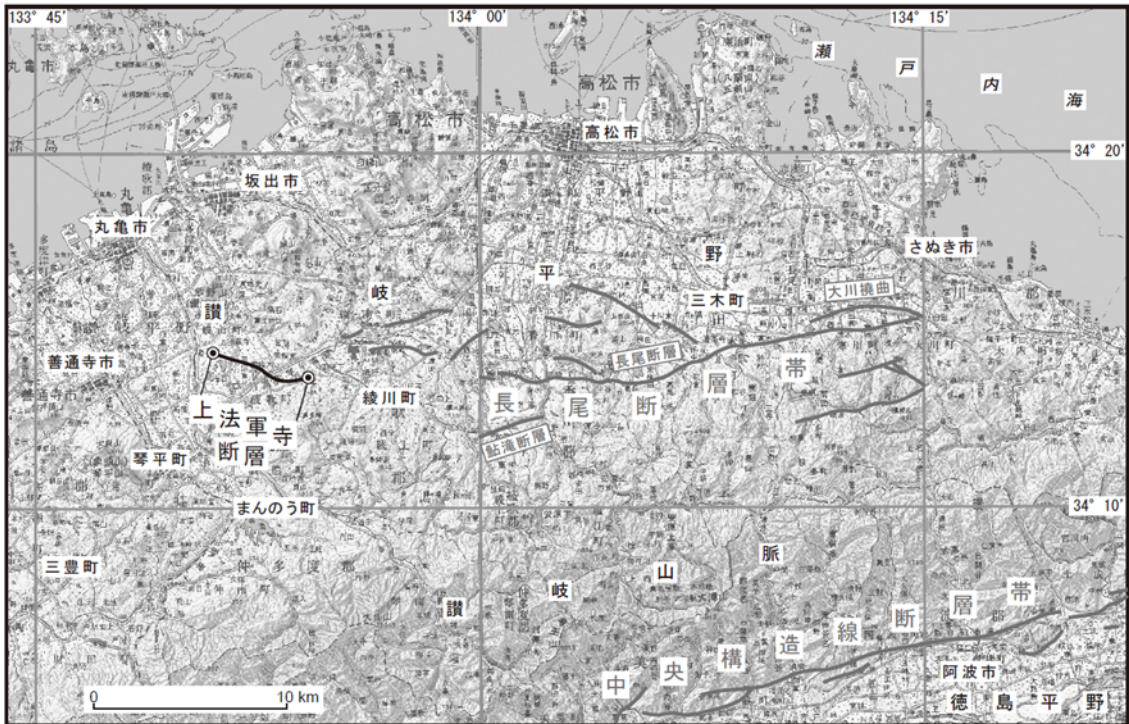


図1 上法軍寺断層の位置

●：断層の端点

基図は国土地理院発行数値地図 200000「徳島」「岡山及丸亀」を使用